

富士見市
高齢者等実態調査報告書
(案)

令和 8 年 3 月

富士見市

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

「第10期富士見市高齢者保健福祉計画」を策定するにあたり、住民の高齢社会についての意識・生活状況、介護予防及び介護に対する考え方、保健・医療・福祉サービスの利用実態、介護者の介護実態や事業所における実態、今後の意向等を調査し、地域の抱える課題や今後の計画策定の基礎資料を得ることを目的とします。

2. 調査対象者

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

65歳以上の方で、要介護認定を受けていない方や、事業対象者、要支援1・2の認定を受けている方（無作為抽出）

(2) 在宅介護実態調査

在宅で生活しながら要介護（要支援）認定を受けている方（無作為抽出）

(3) 居宅介護支援に関する調査

居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護支援事業所

(4) 介護保険施設等の入退所状況に関する調査

介護保険施設・居住系サービス事業所

(5) 介護人材確保に関する調査

介護保険サービス事業所を運営する法人（事業所）

3. 調査期間及び調査方法

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査期間	令和7年11月12日～令和7年12月5日
調査方法	郵送配付・郵送回収及びインターネット（web）回答
設問数	117問

(2) 在宅介護実態調査

調査期間	令和7年11月12日～令和7年12月5日
調査方法	郵送配付・郵送回収及びインターネット（web）回答
設問数	31問

(3) 居宅介護支援に関する調査

調査期間	令和7年12月10日～令和8年1月10日
調査方法	電子メールによる 配付・回収
設問数	25問

(4) 介護保険施設等の入退所状況に関する調査

調査期間	令和7年12月10日～令和8年1月10日
調査方法	電子メールによる 配付・回収
設問数	14問

(5) 介護人材確保に関する調査

調査期間	令和7年12月10日～令和8年1月10日
調査方法	電子メールによる 配付・回収
設問数	事業所票（施設系・通所系）・（訪問系）16問 事業所票（訪問系）6問

4. 回収状況

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	5,000通	3,067通 (郵送2,758通) (web 309通)	61.3%

(2) 在宅介護実態調査

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
在宅介護実態調査	2,100通	1,126通 (郵送 993通) (web 133通)	53.6%

(3) 居宅介護支援に関する調査

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
居宅介護支援に関する調査	—	18事業所	—

(4) 介護保険施設等の入退所状況に関する調査

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
介護保険施設等の入退所状況に関する調査	—	21事業所	—

(5) 介護人材確保に関する調査

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
介護サービス事業所 介護人材確保に関する調査票 事業所票 (施設系・通所系)	—	43事業所	—
介護サービス事業所 介護人材確保に関する調査票 事業所票 (訪問系)	—	18事業所	—
介護人材実態調査 職員票 (訪問系)	—	85事業所	—

5. 報告書利用上の留意点

- ・回答割合(%)は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100.0%にならない場合がある。複数回答が可能な設問は、回答割合(%)の合計が100.0%を超える場合がある。
- ・図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。また、選択肢を回答割合(%)の高いものから低いものへと並び換えて表示している場合がある。
- ・クロス結果の帯グラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。
- ・クロス結果の表で、全体の回答割合(%)より5ポイント以上高い割合は、グレーに着色している。
- ・属性別の分析等において、基数(標本数)が30未満のものについては参考値として扱い、該当する属性におけるコメントを割愛している。

第2章 主な調査結果

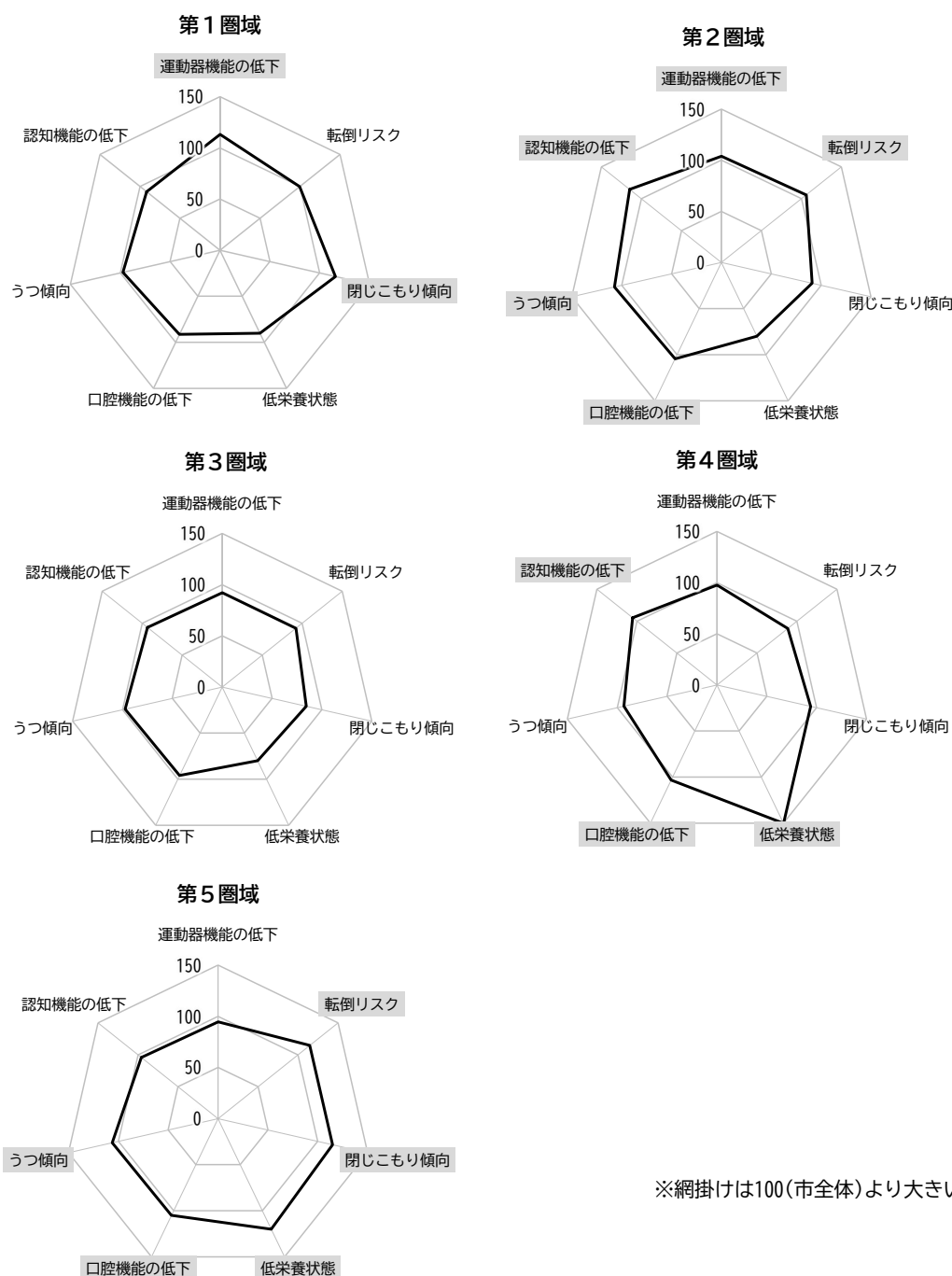
1. 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

以下では、第3章に掲載している調査結果の中から、主要な調査結果を集約・整理しています。

(1) リスク分析の結果（圏域別）

厚生労働省の『手引き』において、リスク把握の考え方を示された項目について、分析を行った。第2圏域では、5項目（運動器機能の低下、転倒リスク、口腔機能の低下、うつ傾向、認知機能の低下）のリスク該当者が、第5圏域でも、5項目（転倒リスク、閉じこもり傾向、低栄養状態、口腔機能の低下、うつ傾向）のリスク該当者が、市全体より高くなっている。一方で、第3圏域では、全ての項目でリスク該当者が市全体より低くなっている。

地域別にみたリスク項目別指標の比較（市全体を100とした場合）



※網掛けは100(市全体)より大きい項目

(2) 家族、生活状況について

■ 家族構成・一人暮らしの不安【1-問1・1-問1-1】

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（39.4%）が最も高く、以下、「1人暮らし」（21.5%）。

一人暮らしの方の一人暮らしに対する不安は、『不安である』が61.2%、『不安でない』が37.8%となっている。

■ 介護・介助の必要性【1-問2】

「介護・介助は必要ない」が82.7%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（8.7%）と「現在、何らかの介護を受けている」（3.0%）を合わせた『介護・介助が必要』は11.7%となっている。

(3) からだを動かすことについて

■ 外出する際の移動手段【2-問9】[複数回答可]

「徒歩」（76.8%）が最も高く、以下、「電車」（44.8%）、「自動車（自分で運転）」（38.5%）、「自転車」（37.7%）。

圏域別にみると、「徒歩」は第3圏域（81.9%）、第4圏域（83.7%）、「電車」は第3圏域（52.3%）、第4圏域（51.9%）、「自動車（自分で運転）」は第1圏域（52.4%）が高い。

■ 市主催の介護予防教室などの参加経験【2-問11】

市主催の介護予防教室などの参加経験は、「いいえ」が89.4%、「はい」は10.3%となっている。性年齢別にみると、「はい」は女性・後期（75歳以上）（17.0%）、「いいえ」は男性・前期（65～74歳）（96.2%）が高い。

■ 参加したい介護・フレイル予防等の活動【2-問13】[複数回答可]

「屋外でのウォーキング」（23.7%）が最も高く、以下、「公民館等での趣味サークル」（18.0%）、「公民館や集会所等での体操」（15.7%）、「市主催の介護予防教室」（11.6%）。

性年齢別にみると、「屋外でのウォーキング」は男性・前期（65～74歳）（30.7%）、「公民館等での趣味サークル」は女性・前期（65～74歳）（24.7%）、「公民館や集会所等での体操」は女性・前期（65～74歳）（21.1%）、女性・後期（75歳以上）（24.2%）が高い。一方、「特にない」は男性・前期（65～74歳）（47.9%）、男性・後期（75歳以上）（46.2%）が高い。

■ 介護・フレイル予防等活動に参加しやすくなる条件【2-問14】[複数回答可]

「自宅で徒歩圏内のところで取り組める活動」（38.4%）が最も高く、以下、「自分と同じような年齢の人が参加する活動」（26.9%）、「自宅で取り組める活動」（24.6%）、「友人・知人と一緒に取り組める活動」（22.3%）。

性年齢別にみると、「自宅で徒歩圏内のところで取り組める活動」は女性・前期（65～74歳）（51.1%）が高く、「自分と同じような年齢の人が参加する活動」（33.5%）、「友人・知人と一緒に取り組める活動」（27.6%）は女性・後期（75歳以上）が高い。一方、「特にない」は男性・前期（65～74歳）（31.9%）、男性・後期（75歳以上）（31.7%）が高い。

(4) 地域での活動について

■ 地域での活動への参加頻度【5-問1】

地域の「ボランティアのグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」、「学習・教養サークル」、「ふじみパワーアップ体操クラブなど、介護予防のための通いの場」、「老人クラブ」、「町内会・自治会」、「収入のある仕事」の8つの活動についてその活動頻度を尋ねた。

「年に数回」以上『参加している』と回答した割合が高い活動は、「町内会・自治会」(27.6%)、「趣味関係のグループ」(27.2%)、「収入のある仕事」(23.8%)等となっている。

■ 地域のグループ活動に参加者として参加したいか【5-問4】

「是非参加したい」(6.0%)と「参加してもよい」(47.6%)を合わせた『今後の参加意向あり』が53.6%、一方、「参加したくない」は33.9%、「既に参加している」は6.1%。

■ 地域のグループ活動に企画・運営として参加したいか【5-問5】

「参加したくない」が57.0%で最も高い。一方、「既に参加している」は3.9%、「是非参加したい」(2.5%)と「参加してもよい」(29.3%)を合わせた『今後の参加意向あり』が31.8%、「既に参加している」は3.9%。

■ 「生活支援コーディネーター」の活動認知【5-問6】

「知らない(わからない)」が79.8%、「知っている」は15.6%。
前回調査と比べると、大きな差はみられない。

(5) たすけあいについて

■ 家族や友人・知人以外の相談相手【6-問5】[複数回答可]

「そのような人はいない」(42.0%)が最も高く、以下、「医師・歯科医師・看護師」(24.0%)。

■ 近所づきあいの程度【6-問9】

「立ち話をする程度の付き合い」(38.5%)が最も高い。一方、「あいさつをする程度の付き合い」(30.5%)と「ほとんど付き合いはない」(7.1%)を合わせた『近所づきあいが少ない』は37.6%となっている。

圏域別にみると、『近所付き合いが少ない』は第3圏域(43.9%)が高い。

■ 地域でできる支援【6-問10】[複数回答可]

「安否の確認(見守り、声かけ)」(32.4%)が最も高く、以下、「ゴミ出し」(32.3%)、「話し相手・相談」(28.6%)、「災害時の手助け」(23.5%)。

■ 「たすけあい支えあえるまち」になっていると思うか【6-問13】

「あまりそう思わない」(27.2%)と「全くそう思わない」(6.2%)と合わせた『そう思わない』が33.4%、「とてもそう思う」(2.7%)と「ややそう思う」(19.6%)を合わせた『そう思う』は22.3%、「わからない」は41.3%となっている。

前回調査と比べると、大きな差はみられない。

(6) 在宅医療・介護について

■ 終末期において主に過ごしたい場所【8-問3】[複数回答可]

「自宅で療養して、必要になれば、それまでの医療機関に入院したい」(30.2%)が最も高く、以下、「自宅で療養して、必要になれば、緩和ケア病棟に入院したい」(30.1%)。

家族構成別にみると、「老人ホームなどの施設に入所したい」は1人暮らし(17.0%)が高い。

■ 最期まで自宅での療養ができると思うか【8-問4】

最期まで自宅での療養ができるかは、「わからない」が54.9%、「困難である」が37.8%、「できる」が5.7%。

(7) 認知症に関することについて

■ 認知症相談窓口の認知度【9-問4】

認知症相談窓口の認知度は、「いいえ」が72.0%、「はい」は23.2%となっている。

前回調査と比べると、大きな差はみられない。

■ 認知症に関することで知っている内容【9-問5】[複数回答可]

「早く対応・治療することで、進行を遅らせたり、症状を改善することができる」(75.0%)が最も高く、以下、「正しい生活習慣(食生活や運動)や、脳を活性化させることなどが認知症の予防につながる」(74.0%)、「若くして認知症を発症する人がいる」(67.5%)。

■ 軽度認知障害が改善することがあることの認知【9-問6】

軽度認知障害が改善することがあることの認知は、「はい」が59.1%、「いいえ」は33.4%となっている。

■ 認知症の人と接する際に、困ったこと・心配なこと【9-問8】[複数回答可]

「接し方がわからない」(41.0%)が最も高く、以下、「言葉のかけ方や配慮がわからない」(31.9%)、「事故や徘徊などの対応が心配」(28.1%)、「地域で見守る方法がわからない」(12.8%)。

(8) 介護保険制度等について

■ 「高齢者あんしん相談センター」の認知【10-問1】

「高齢者あんしん相談センター」の認知は、「知らない」が60.0%、「知っている」は37.2%となっている。

性年齢別にみると、「知らない」は男性・前期(65~74歳)(71.5%)、男性・後期(75歳以上)(67.2%)が高い。

■ 今後の生活を続けていくうえで心配なこと【10-問3】[自由回答]

今後の生活を続けていくうえで心配なことを自由回答方式で聞いたところ、775件の回答が挙げられ、回答を分類分けすると、「年金・経済状況・保険料等について」(135件)が最も多く、以下、「健康・身体が不自由になった時のことについて」(120件)。

2. 在宅介護実態調査

以下では、第4章に掲載している調査結果の中から、主要な調査結果を集約・整理しています。

(1) 介護保険等のサービス利用について

- **（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況【問5】**
介護保険サービスの1ヶ月以内の利用状況は、「利用した」が58.1%、「利用していない」は39.3%となっている。
- **現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービス【問8】[複数回答可]**
「特にない」(58.7%)が最も高い。利用している支援等は、「掃除(片付け)」(6.7%)が最も高く、以下、「買物代行」(6.3%)、「外出同行(通院、散歩など)」(6.0%)、「外出時の送迎」(5.4%)。
- **今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス【問9】[複数回答可]**
「災害時の手助け」(24.1%)が最も高く、以下、「外出同行(通院、散歩など)」(18.5%)、「外出時の送迎」(17.9%)、「掃除(片付け)」(12.8%)。
世帯類型別にみると、「掃除(片付け)」(18.0%)、「安否の確認(見守り、声かけ)」(17.7%)、「ゴミ出し」(15.3%)、「布団干し」(13.2%)は単身世帯が高い。

(2) 施設等への入所・入居について

- **施設等への入所・入居の検討状況【問11】**
「入所・入居を検討していない」(73.4%)が最も高く、以下、「入所・入居を検討している」(13.9%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(7.2%)。
前回調査と比べると、大きな差はみられない。
要介護度別にみると、「入所・入居を検討していない」は要支援1・2(82.5%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」は要介護3以上(28.3%)が高い。
- **入所・入居を検討またはすでに申し込みをしている理由【問13】[複数回答可]**
「施設に入所・入居した方が安心だから」(57.1%)が最も高く、以下、「家族に介護負担をかけたくないから」(39.1%)、「心身の状況から家での介護が困難だから」(38.2%)、「専門的な介護が受けられるから」(29.8%)。
前回調査と比べると、「専門的な介護が受けられるから」が6.5ポイント低く、「家族が働いているから」が6.7ポイント、「現在の住居が介護に適していないから」が5.5ポイント高い。

(3) 主な介護者の方について

- **介護の頻度【問16】**
介護の頻度は、「ない」(34.2%)が最も高く、以下、「ほぼ毎日ある」(30.3%)。
前回調査と比べると、「ない」が12.0ポイント高く、「ほぼ毎日ある」が11.0ポイント低い。

■ **主な介護者の年齢【問20】**

主な介護者の年齢は、「50代」(31.4%)が最も高く、以下、「60代」(25.4%)、「80歳以上」(21.2%)、「70代」(12.6%)。

前回調査と比べると、「80歳以上」が5.1ポイント高く、「70代」が7.2ポイント低い。

■ **主な介護者が行っている介護【問21】[複数回答可]**

「その他の家事」(70.3%)が最も高く、以下、「外出の付き添い、送迎等」(66.1%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(64.1%)、「食事の準備(調理等)」(58.2%)。

要介護度別にみると、「食事の準備(調理等)」は要介護1・2(63.5%)が高く、「その他」「わからない」を除く全ての項目は要介護3以上が高い。

■ **主な介護者が不安に感じる介護【問22】[3つまで選択可]**

「認知症状への対応」(28.2%)が最も高く、以下、「外出の付き添い、送迎等」(24.2%)、「夜間の排泄」(18.8%)、「日中の排泄」(16.8%)。

前回調査と比べると、「認知症状への対応」が13.8ポイント、「外出の付き添い、送迎等」が7.9ポイント高い。

要介護度別にみると、「日中の排泄」(26.4%)、「夜間の排泄」(25.7%)は要介護3以上、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(24.0%)、「不安に感じていることは、特にない」(14.7%)は要支援1・2が高い。

■ **主な介護者の勤務形態【問23】**

「働いていない」(41.1%)が最も高く、以下、「フルタイムで働いている」(27.6%)、「パートタイムで働いている」(18.8%)。

前回調査と比べると、「働いていない」が5.0ポイント低い。

■ **主な介護者の働き方の調整状況【問24】[複数回答可]**

フルタイム、又はパートタイムで働いている主な介護者において、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(34.2%)が最も高く、以下、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(27.9%)、一方、「特に行っていない」は33.8%。

■ **仕事と介護の両立に必要な支援【問25】[3つまで選択可]**

フルタイム、又はパートタイムで働いている主な介護者において、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(34.6%)が最も高く、以下、「介護をしている従業員への経済的な支援」(26.4%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制、短時間勤務制度など)」(24.5%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(23.4%)。

■ **介護をしながらの就労継続見込み【問26】**

フルタイム、又はパートタイムで働いている主な介護者において、「問題はあるが、何とか続けていける」(53.9%)が最も高く、以下、「問題なく、続けていける」(25.3%)、「続けていくのは、やや難しい」(12.3%)、「続けていくのは、かなり難しい」(3.0%)。

前回調査と比べると、「問題なく、続けていける」が13.2ポイント高く、「問題はあるが、何とか続けていける」が6.0ポイント低い。

